

多種多様、淡水魚たちの生態と生活史 淀川水系魚類名鑑

希少野生動植物保存推進員
横山 達也



under the water

カワバタモロコ

Hemigrammocypripis rasborella

コイ科の小型の淡水魚です。分布は、静岡県以西の本州、四国、九州北西部に不連続に分布している日本固有種。平野部の小川やこれに続く湖沼や水路の、流れのほとんどの水草の繁茂しているような場所に生息しています。全長は飼育下では最大約7〜8cmで、自然界においては少し小さく約3〜4cmで



金色に輝く美しい魚群れが動くとさらに煌めく



す。繁殖期の雄は、体色が金色になり、地方名でキンジャコ、キンタなどと呼ばれ、大変美しくなります。雌の方が雄よりも大きく成長し、また体高も高くなります。食性は雑食性で、付着藻類や水生昆虫など何でも食べます。繁殖期は、5〜7月で、成熟した1尾の雌を複数の雄が追尾して浅場の水草に卵（卵径約1mm）を産みます。卵から孵化した仔魚は、日本産コイ科魚類中、ヒナモロコとともにもっとも小さく、全長は約3mmです。生息地の改修や、宅地化による池沼の埋め立て、外来魚の侵入による捕食などにより、生息が確認されている15の府県すべてで、現在レッドデータブックに記載されており、絶滅の危機にひんしています。愛知県豊田市と西尾市では、市の天然記念物に指定されています。

the waterside

花想鳥感

四季折々、
水辺の生物多様性

高槻市立自然博物館 主任学芸員
高田 みちよ

ツバメ

この季節、みなさんの家の周りや商店街などでツバメが飛び交っていることでしょう。大阪府にツバメは4種類います。ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ショウドウツバメです。このうち、ショウドウツバメだけが渡り鳥として通過し、それ以外の3種は府内で営巣します。そのうちでもツバメは住宅や駅、商店街など、人の出入りの激しい、至るところに巣をつくります。本当は建物の外側よりも、人家の内側で人と一緒に暮らすのが好ましいのですが、糞や寄生虫のこともあり、一緒に暮らすのは少々難しいようです。4〜6月に巣をつくるツバメたちはおおむね2回子育てをし、多ければ3回子育てをします。鳥にとっての巣は子育てのための「ゆりかご」であり、家でもベッドでもありません。一人前になった子どもと卵やヒナを温める必要なくなった成鳥たちは、巣ではなく、ねぐらで夜を過ごします。ツバメの場合、好まれるねぐらはヨシ原です。関西で最大のねぐらとなっているのが鵜殿のヨシ原で、3〜4万羽が寝に來ます。日没前の30分ぐらいから、夕暮れ空に三々五々集まってきたツバメたちがヨシ原の上空をぐるぐると飛び回り、意を決したようにヨシをめがけてパラパラと下りていきます。淀川で水を飲んだり水浴びをする個体もあります。そして、8月後半から9月下



旬ぐらいまでに、徐々に南方に渡っていき、ねぐらは消滅していきます。これだけ身近で知られているツバメですが、渡った先でのことはよくわかっていません。いったいどういうルートで渡っているのか、冬はどこでどうやって過ごしているのか、オスとメスの関係は冬も継続しているのか、などなど、ツバメにはわからないことだらけです。このツバメたちが夜を安全に過ごす鵜殿のヨシ原が、今、危機に瀕しています。第二名神が平成35年に鵜殿を通過することが決まっています。この巨大道路がツバメにどう影響するかはわかりません。皆さんの身近な野鳥であるツバメの今後を見守ってください。

the sky & land

水辺の

虫眼鏡

川に棲む水生生物の魅力的な生態

環境省 環境カウンセラー 川島 大助

甘い香りのアメンボ

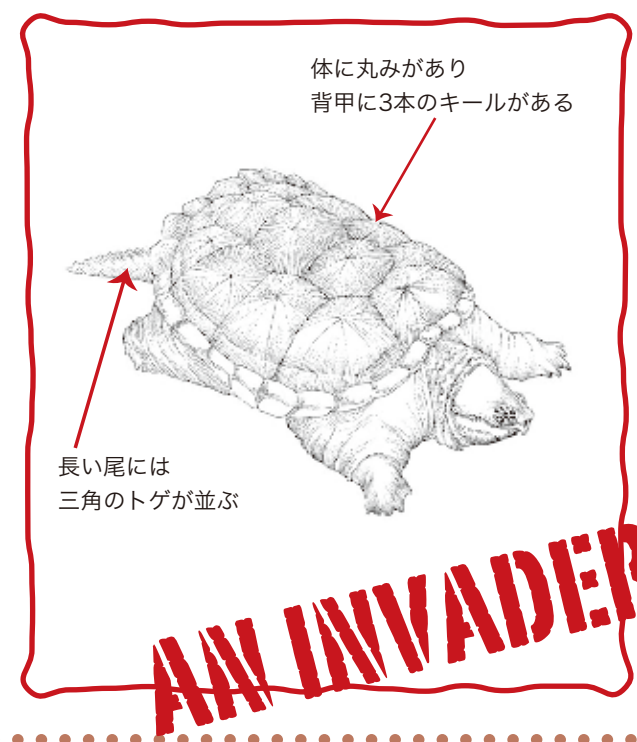
アメンボ類はカメムシ目に分類される昆虫のうち、長い脚をもつ水上で生活するタイプの総称で、熱帯〜亜寒帯まで広く分布しています。淀川流域では、本川、ワンド、たまり、池、水田、用水路などの水域に生息しています。また、雨の後に一時的にできた水たまり（市街地の道路、駐車場、グランドなど）でも、しばしば見ることができます。本種は6本の脚のうち、中脚と後脚が細長く（前脚は短い）、この4本の脚で身体を支えて、水の表面張力を利用して水面を蹴り滑るように移動します。成虫は水際の植物や石などに産卵し、卵→幼虫→成虫の成長過程で、幼虫（翅なし）と成虫（翅あり）はほぼ同じ姿をしていますが、成虫は飛んで移動することができます。幼虫、成虫ともに肉食性で落下昆虫や魚の死体などに口吻を突き刺し、消化液を注入し、消化された液体を吸汁します。またアメンボは獲物が水面で動いて発生する水面波を感知し獲物を掴んで捕らえるおもしろい習性があるため、人が水面を小さく叩いて波紋を作ると、その中心にアメンボが近寄ってきます。そのとき、夕毛網を素早く操ることで採集でき



ます。触れてみると名前の由来でもある『飴』の匂いを放ちます。特に雨の多い梅雨時期は市街地の水たまりなど、色んなところでアメンボの姿を見られると思いますので、身近なアメンボをぜひ観察してみてください！

the worst 100

侵略的外来生物 淀川ワースト100



AN INVADER

カミツキガメ科 カミツキガメ
Chelydra serpentina

淀川管内河川レンジャー 石山 郁慧



今回は、和亀保護の会の西堀智子さんに執筆をお願いし、写真もお借りしました。同じ川で活動する男前(?)の研究者です。

米国からペットとして輸入された個体が遺棄され、それが日本各地の川や池で釣られたり、住宅地を歩いているのが発見されたりしてニュースになっている。現在千葉県印旛沼周辺と静岡県で繁殖が確認されているが、大阪でも5月に摂津市で見つかった個体は野外で繁殖したと思われる若い個体であった。雑食性でカメさえも食べる。背甲長50cmと大型に成長するため、たとえ少数でも環境に与える影響は大きい。むやみに咬みつくわけではないが、首の動きはカメとは思えないほど俊敏で可動範囲が広く、爪が発達し、非常に力も強いので、ハンドリングには十分な注意が必要である。



川で見つけても触らないように!!

